



心と心を合わせた時・・・

あれから一週間・・・

先週木曜日に合唱祭が終わって、今日で一週間たちました。習志野文化ホールが改修工事のため、今年は市川市文化会館のホールでの合唱祭となりましたが、おかげさまで無事に終わることができました。当日はたくさんの保護者の皆様に観覧に来ていただき、ありがとうございました。

あれから一週間、子ども達は以前と同じように学校生活を送っているように見えます。しかし、体育祭のときと同じように、少し経験を積んで成長した姿がそこにはあります。

今回、どの学年も、それぞれいろいろな事を乗り越えて合唱祭当日を迎えたのだと思います。各学級の代表生徒が発表直前に行う曲の紹介の時には、当日までの学級の様子が見えるようなコメントが結構ありました。そして、その後のステージ上では、今できる最大限の力を発揮した姿がありました。歌い終えた子ども達の表情は、いずれも力を出し切った「いい顔」をしていたと思います。

行事のときにはそれぞれの思いがぶつかりあうこともあります。特に体育祭や合唱祭では、同じ目的に向けて何とか気持ちを合わせようと努力すればするほど、ふだん自分達が目を背けていた事とも向き合わなければなりません。そして悩み、考えることで、今まで気がつかなかったことに気づきます。子供たちは、そういう経験を通してひとつずつ成長していきます。

あれから一週間。でも、子ども達にとっては大きな山を乗り越えた後の一週間です。お互いの心と心をあわせようと努力した経験は、子ども達の表情も少し変えたように思えます。来週17日土曜日には授業参観があります。お出でになった際は、お子さんの学校での表情もぜひよく見てほしいと思います。



姉妹都市西安への友好使節団訪問



10/23(火)～27(土)、教育長を団長とする船橋市教育友好使節団（小学生20名、中学生15名、高校生5名）が中華人民共和国の西安市を訪問し、本校からも2年生の林直輝さんと白鳥結子さんの2名が代表として参加しました。

船橋市と西安市は昭和63年に友好交流を開始し、平成6年には市場小学校と大雁塔小学校、船橋中学校と育才中学校、市立船橋高校と第八十五中学校が、それぞれ友好交流校となりました。その後、教育交流はお互いの学校の訪問や作品の交流等で継続して現在に至り、教育友好使節団の派遣は今回で4回目となります。

育才中学校と本校は交流校なので、本校の玄関や階段には育才中学校の生徒の作品が数多く飾られています。以前この紙面で紹介した美術部が作成してくれた5mの大きな作品も、私が丸めて手荷物で機内に持ち込み、学校訪問時には絵を広げて、絵の内容を紹介して手渡しました。今頃、育才中学校の廊下に展示されていることと思います。

来年にはまた作品交流を行い、その次の年には、西安からの派遣団が本校を訪問する予定です。今回の西安訪問の報告については、またあらためて行いたいと思います。